

作物名：麦類

病害虫名：オオムギうどんこ病（病原：*Blumeria graminis f. sp. hordei*）  
コムギうどんこ病（病原：*Blumeria graminis f. sp. tritici*）

## 1 被害の特徴と診断のポイント

- 葉、葉鞘、茎、ときには穂などに白～灰色で粉状の病斑を形成し、点々とうどん粉をまき散らしたように見える（写真1、2）。初期の病斑は白いカビの塊だが、病勢が進展すると大型病斑になり、白いカビが盛り上がったように見える。古い病斑は灰色～灰褐色に着色し、そのような病斑内には黒色で小粒（1mm以下）の子のう殻を形成する。
- 発病は下位葉から始まって上位葉へと進む。生育前半の発病は収量にほとんど影響しないが、穂及び止葉を含む上位2葉における多発は千粒重の低下を招く。



写真1、2 葉の病斑

## 2 伝染源・伝染方法

- 被害わらやこぼれ麦上に形成した子のう殻（子のう胞子）が発生源となる。
- 菌糸は直接侵入せず、吸器を寄主の表皮細胞内に挿入して養分を吸収する。病斑上に形成される分生子は風で飛散して新たな寄主に到達し、感染を繰り返す。感染には20℃前後が好適とされ、潜伏期間は3～5日と比較的短期間とされる。
- うどんこ病菌は多数のイネ科植物に寄生するが、コムギとオオムギに寄生する菌はそれぞれが異なる分化型に属するとされ、相互に寄生しない。

## 3 発病しやすい条件

- 風通しや日当たりの悪いほ場
- 春が温暖で雨が多く、早くから繁茂した年
- 窒素質肥料の過多、不適切な追肥

## 4 防除方法

### （1）耕種的防除

- 窒素質肥料の多施用を避ける。
- 地域にあった適正な播種量で播種時期を厳守する（晩播を避ける）。

### （2）化学的防除

- 蔓延期に、薬剤防除を行う。
- 穂揃期～開花期の止葉の病斑率を50%（病斑面積率で0.5%）以下に抑えると、実質的被害を生じることがない。

## 5 出典

### （1）参考文献

- みやぎの麦類・大豆栽培技術指導指針（宮城県）
- 農業総覧 原色病害虫診断防除編1（農文協）
- 日本植物病害大事典（全国農村教育協会）

### （2）写真

- 宮城県病害虫防除所撮影